

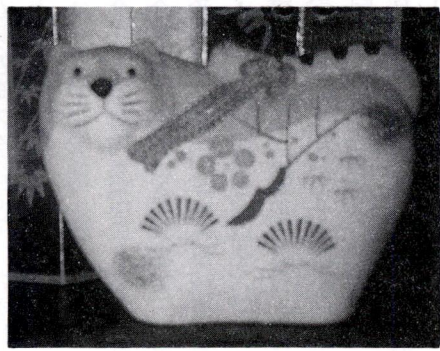
わがかわが報

発行者

香川自治会広報委員会

印刷所 (有)スエカネ印刷

1998 頌春



年の初めに

自治会長 熊沢 藤俊

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

平成九年度も後三ヶ月を残すのみとなり、本年度計画された諸行事の大半が無事に行われたことに對し、住民の皆様の積極的な参加と役員懸命の努力の賜と深く感謝しております。

さて、香川自治会における今後の課題を再度振り返って見ますと人口一万一千人を超える急増の中で、環境問題（道路、ゴミ、駐輪場等）と、自治会活動における活性化の問題であります。もう一つは各町内会で現在積極的に取り組む推進している防災対策の中で住民の意識の問題であります。

私は、昨年十月二十二日茅ヶ崎市自治会連絡協議会メンバーの一員として、神戸市長田区（人口九〇一六六人）の震災についての視

察に行きまして参りました。大震災後三年、メイン市街地の殆どが復興されていたことに驚きました。

しかし、真陽地区、真野地区、丸山地区の三自治会長の大震災直後の様子（死者九一七人、全焼四五九棟、全壊一五五二棟）や震災後の避難所生活の実態の報告を受けました。本心に想像をはるかに超える大震災であったと印象づけられました。

ただこの悲惨な出来事の中で、大震災直後の消火活動と倒壊家屋の下敷きになっていく人々の救出などに住民が一体となって必死に戦いをいどんだこと、また避難所生活では、総ての避難者の公平を期し混乱を起さなかったことなど、これらは神戸市が他の地域と違って、以前から防犯等についてのコミュニティ形成がなされており、これらが即震災時の対処につながったと云うことであります。

「防災組織や訓練も大切だが、住民近所でのコミュニティづくりが最重要課題である」自治会長の言葉が今も強く心に残っております。香川地域に於ても今後の問題として隣近所意識をどう育てていくのが、大きな課題であると思

います。また、十二月十二日には市の福祉協議会として、足柄上郡開成町に参りました。開成町は人口一五九三人、十三自治会あります。福祉会館の視察でしたが、延床面積三三三九㎡、建物構造は鉄筋コ

ンクリート三階建、総工費一七億五千万円、平成七年三月三十一日に完成しております。四五一人名員の多目的ホールは移動観覧席などを揃え、その近代的設備に驚かされました。その他娯楽室、作業室、地域交流室など十室もあり、各自自治会のボランティア活動によって支えられ、活発な福祉活動が行われておりました。

香川と人口が余り変らない開成町で、このような多彩な活動が行われていることを羨ましく思うと同時に、単位自治会が小さい乍ら独自性を持ち、町政を支えていることのすばらしさを強く感じました。

この二つの視察を通じ、各地域にはそれぞれの特性があり、しかもその地域性を生かし、努力を続けながら生活基盤を広げていることに驚異を感じます。香川地域に於ても、この地域を再確認し、活性化には何が必要なのかを再考すると共に、住民の自治意識を高め

ていかなくはならないと思えます。第一町内会長 田中 徹

年頭雑感

第一町内会長 田中 徹

おめでとうございます。

昨年は、前年末に起きたペルー人質事件の暗いニュースの中で年が明け、年間を通して、社会の動き、経済状況等、良くない事ばかりだ、あまり良くなかった年だったようです。

でも、皆様の御家庭では、良い事もあった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

二十世紀も今年を入れて、あと僅か三年となって参りました。今年も、昔風という成寅（つちのえとら）の年だということだ

そうです。戌は、茂るの意で、草木が繁栄して盛大になった状態を表すとのことですし、又寅は、うぐの意で、土中にある草木が萌え出るといふことであるといわれています。従って、成寅の年というのはい世の中のうづもれていた良いものが表に出て盛んになる年である」ということになり。

それ故に「今年の我が国の運勢は、社会状態も、経済も大いに盛り上り発展して行くであろう」と卦を立てた人もいろいろです。（或る運勢暦による）本心に、老若男女を問わず、豊かに幸せになつてくれるといいのですが、当るも八卦、当然も八卦」とか何とも心もとないことではあります。

それはさておき、今年も、国政では参議員の改選があります。又当自治会では役員改選があります。毎度のことながら、役員選出については、年初早々悩みの種です。第一町内会では、11月に、自薦他薦の役員候補者を募りましたが、極めて少数の方の申出があったのみでした。多数の方の応募を期待していたのですが、これからの立候補をよろしく願います。

今年も、社会情勢、経済事情が昨年より特別に好転するとは考えられません。昨年より、少しでも良い年になって貰いたいものです。それには、人から与えられるのを待つて手を拱ねているのではなく、少しでも良くなるように、一番身近な、隣近所、その地域の多くの人々と話し合い、手を取り合つて積極的に活動し、自分の意志を表し行動して行かなければいけないのではないのでしょうか。

皆様の力によって、この町内で良くない事が起きない様に、昨年より少しでも住み良い住環境になるように頑張っていきたいと思います。

第二町内会長 長田 昇

歳とり

第二町内会長 長田 昇

昔は、満年齢ではなく、数え歳でしたので、大晦日は、歳取りと称して年齢が一つ増えた事を喜んだものでした。

しかし、年齢と言っても精神年齢から肉体年齢まで、いろいろと各人各様であり、年齢は一つの目安でしかないのかも知れませんが、国勢調査員を依頼する時に、65才以下という条件らしきものが付いていました。これは非常に失礼な事だと思っております。

80才を過ぎても国会議員を務めている人も居れば、100才を越えてなお、テレビ等に出演して元気に活躍して居る人も居ります。以前、ゴルフ場で70才過ぎの方とご一緒した事がありましたが、見るからに精悍な体格をしており、年齢を感じさせないプレーぶりでした。

その後、半年程過ぎた頃、プレー仲間とその老人の話題になり、その方は、ゴルフ場のある大会に出場優勝し、そして数日後に亡くなってしまったと聞きました。

永年の願望であった優勝を果たし、見事にこの世の区切りとした大往生には頭がさがりました。還暦を迎えるまでは、歳のことなどあまり気にはなりませんでしたが、還暦を過ぎた頃から何となく歳を意識するようになりました。これは老化現象の始りかも知れません。

最近、介護保険法が成立し、政府も高齢化社会に備えて、いろいろと政策を考えているようですが、

いずれにしても自助努力なくして達成される方策などないと思っております。介護保険の世話にならないように、自分の身体の健康に注意すると共に、常に前向きに思考し、頭脳の劣化を防止する事が肝要だと思います。

満65才を人生のラストコーナーへの出発点ととらえて、人生の最終ゴールまで、気持を新たに、有終の美を飾ることは叶わなくても、悔いのない人生を送ろうと思っております。

苦あれば楽しみあり

会計委員長 吉田 弘司

新年、明けましておめでとうございます。

早いもので、会計を担当してから二回目の新年を迎えることとなりました。就任の時に広報で、「どうぞご支援を」とお願いをして会計をお預りしました。

会計の仕事は自治会の全体的な活動や、各委員会の活動を動き易くするため、適切に資金を供給することが原点と考え、透明性を保つて進めて参りました。お蔭様で、今日迄曲りなりにも円滑な自治会運営に携わることが出来、会員皆様方の深いご理解とお力添えに感謝しております。

また、この二年近くで、町内をはじめ相模線の香川・茅ヶ崎間では随分とお知り合いの顔が増え、ご挨拶を交わす機会が多くなりました。任期はもう少しですが、これ迄にいただいた温かい励ましは、私の大きな財産として残ります。暗い話題の多かった昨年でしたが、せめて足元から明るい町づくりにお役に立てるよう努めたいと考えております。

役員選出の思い

総務委員長 渥美隆次

香川自治会は、四つの町内会から形成されている。

現在の自治会加入世帯数は、第一町内会643、第二町内会932、第三町内会604、第四町内会808で、合計二九八七世帯で、まもなく三〇〇〇世帯になるようになっている。

私が香川に住むようになった昭和53年頃は、会員名簿によると約二二〇〇世帯だったから、この19年間で800世帯近く増えていることになる。松風台自治会が約600世帯だから、その増加ぶりに驚くほかはない。今年、この茅ヶ崎一のマンモス自治会で、平成10・11年度の役員選出が行われる。まず平成10年度の組長が、各町内会の評議員を選出する(1月18日)。そして評議員と組長とで各町内会長を選出する。更に町内会長、評議員、組長で、各町内会役員を選出する。

それから四町内会合同で、各委員会ごとに正副委員長を決める。これらは2月中旬に実施。次に4名の町内会長と各町内会役員8名(各町内会より2名)合計12名で、次期自治会長を選出する(平成9年11月1日の評議員会で改正)。そして自治会長は、総務委員長を委嘱し、会計委員長を4人の町内会長の同意を得て委嘱する。これらは3月中旬に実施。こうして選出された役員27名(会員名簿16頁参照)で、各委員会が立案した行事や活動を、定例協議会(毎月1回)で、協議、検討して実施する。

私が会員数や役員選出の仕組みを書いたのは、マンモス自治会とはいえ、その原動力は組長であり、各町内会役員であることを言いたかったからだ。選出方法は、それ

ぞれの町内会で違ふと思うが、「広報かがわ」142号の志沢氏や、148号の長谷川氏の提案など、検討する必要があるだろう。

次に、役員の高齢化や、マンネリ化を問題視する意見もある。高齢化の問題は、役員の活動が一年を通じて休日だけではなく、平日の活動も多いことから、若い人たちの参加が制限される現状もある。

だが年月とともに、齢を重ねるのは人間みな同じ。ただ年は同じでも、健康状態や年のとり方は、人により皆違ふ。高齢化を問題にするならば、役員にも定年制が必要だろう。マンネリ化の問題はそれを防ぐ方法として私は「何年以上は役員を継続してはならない」という規約を作ればよいと思う。期間何年は皆で協議して決めればよい。私は二期(4年)か三期(6年)位が限度だと思ふ。

改選方法は、各町内会独自の方法でよいと思う。要するに、もつといろいろな人が、もつと気楽に役員になり、マンモス自治会の実情を知り経験し、どうしたらよいかを考え、できる範囲での仕事をすればよいと思う。一般会員も役員たちを励ます姿勢が必要だろう。

年頭所感

第三町内会長 伊藤 悟

年頭にあたり会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の12月14日に、町内会行事で役員(他に小学生1名)及び本部関係役員が、防災組織図

によるA・Bブロックの清掃作業を行いました。この日のゴミ拾いは、一時間ほどで終り、28名の参加者各自が持参したポリ袋一杯になるほどのビン、缶、紙屑、吸殻、更には傘2本が収集されました。

が、この成果と別に、予期せぬ収穫がありました。

それは、各自が自分の責任で作業を終って、お金に換えられない充実感を味わい、お互い士で喜びを分かちあえたことでした。このことは何かボランティアの本質を覗いた思いでした。会議や諸行事での交流が役員間ではありますが、今度のように同じ作業をし、同じようにすがすがしい思いをしたことは初めてのことで、これにより交流は更に深まったと思います。

二月には、C・D・E・Fブロックの清掃予定がありますが、今年はこの運動が地域に広がってゆくことを期待したいものです。美化キャンペーンは、たとえポイ捨て禁止条例が出ても終る簡単な問題でもなく、この地域に本物の市民社会が構築されるまで続けなければならぬ仕事だと思ふ。

今回もう一つ気づいたことは、ゴミを一人で拾うということには少々抵抗があるものの、多勢だと容易に取り組めるボランティアだということでした。

時代の流れは、防火、防災、防犯、〇〇防止等、天災であれ、人災であれ、「防ぐ」ということを地域社会が取り組まねばならぬいなりゆきにあるようです。地域住民の手で、この解決を計らなければ、二十一世紀に希望が持てないのではないのでしょうか。

世相が変化する時代は、足元を見直して見る、今年はこの年でもあるかのような気がします。

町内会活動の回想

第四町内会長 中村五初男

明けておめでとうございませう。今年も一層輝く年でありますようお祈り申し上げます。

役員改選の年で、何かとお世話をおかけすることと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

激動の一年を振り返ってみると面白い話題では、第29回香川地区体育大会で、第四町内会が見事に優勝(最高の65点)これは、選手活躍をはじめ関係役員皆様が、一丸となって応援したための成果であったと、感謝しております。

自衛防災隊組織は、評議員・組長中心とした隊員101名で編成し、正式に発足。防災教育の一環として、「町内防災研修会(映画と講演)」を実施。神奈川県総合防災センター主催の「一日防災研修会」にも参加した。

防犯パトロールは、警察の協力一昨年から夜間に行っている。12月16日、自治会館で、防犯研修会を開催。警察官から「11月未まで茅ヶ崎で発生したひびひひびひ事件は56件と増えているので、被害に遭わないように注意が肝要、自らの安全は自ら守るしかない。」

とのお話があった。その後、ビデオ上映会が行われた。ひびひひびひの犯人は、女性、老人をターゲットにしている。注意事項として、

(1)道路を歩くときは、バック類は、道路と反対側の手に持つこと。

(2)自転車の荷カゴにバック類を入れるときは、防犯ネットをかけるか、ネットがない場合は、別の荷物に乗せると被害にあわないことを知ることができた。その後の懇談会で、次のような意見や感想があった。「役員が、防犯に熱心に取り組まれているのがわかりました。防犯灯の必要箇所や自転車無灯火などいろいろ気付いた一年でした。ビデオによる研修会は、もつと地域の方々が参加されるといいなと思ひました。」と北畑民生・児童委員。「二人一人が気を引縮めて犯罪を未然に防いでいきたいですね。」と田村北子ども会会長。

環境保全では、香川小プール空地の不法駐車問題で行政と再度交渉し柵を設置させた。また、大雨の度、床下浸水が起る地域の方々から陳情(63名の署名)があり、路面排水整備について行政に働きかけた。(現在補修工事中)

町内の道路整備が遅れている反面、違法性がなければ、開発が認められ都市化が進んでいる現状をみて、もつと、町内会ぐるみの運動と会員の熱意、世論の広がりが大切だと痛感しました。

ファイバーリサイクル

ファイバーリサイクルは、古着や古布などの繊維を回収して、リサイクルする活動のことです。ゴミの減量化が叫ばれる中、これまで古繊維は量も少ないし、プラスチックのように燃やしても有害なガスが出ることもないという点で、ゴミとして繊維はあまり問題視されてきませんでした。そのためか、古繊維がゴミの中に混じる比率が増え

てきました。ところが古繊維は回収後ほぼ100%リサイクル可能との

ことです。専門の回収業者の話によれば、戦後、物資が不足した時期、日本は、古着を輸入し重宝したことがあった。「今、私達はお返しする番です。」と云っておられた。

あまり使い込んでいない日本の古着は、品質が良いので商品価値も高く、主として東南アジアや、アフリカ、南米に輸出されています。洗いざらしの良く使い込んだ綿布、シーツやタオル、下着類は、ウエス(機械拭き用の布)として

吸収力が抜群で、古い物ほど適している。破れた衣類やセーターは、反毛(古着を針でひっかけて、もつ一度繊維に戻す。)にして、じゅうたんや、フェルトの材料や、セーターとして再生されます。リースのカーテンは花嫁衣裳になり、でんせんしたストッキングは、カラー軍手に変身したりと捨てるものはありません。価値ある古着や古繊維ながら、回収可能量の約10%

多程しか、集められていないと推定されます。再利用可能な情報が行き渡り、回収拠点が増えれば、ゴミとして焼却されたり、埋められることも少なくなり、想い出深い大切な品々も、地球規模のリサイクルを目指している回収業者のネットワークを利用すれば、どこかの国で喜んで使ってもらえるのです。国内でも需要はあります。

現在、当地で回収を行っているのは子供会で実施時には回覧でお知らせしていると思ひます。他に隔月(偶数月)第一日曜日に、コ

ープ甘沼店前を集荷拠点として、市民グループが組織を作って回収しています。衣替えの季節には沢山出ています。収益金は、ユニセフに寄付されます。

ファイバーリサイクルしてゴミを減量化すれば、地球温暖化防止にもつながりますから。

もう一度見たい風景

森上義孝

小さな子供には、果てしなく見える田園風景。広広とした田園の向こうに目をやると東から西へ、その水田より一段高い丘陵地が続いて、西のはずれには遠く大山とそれに続く山山が連って見える。

幼少から小学生低学年まで住んでいた本村から見た風景である。

田園のほぼ中央を一直線に南から北に一本のまだ舗装のされていない凸凹道の県道が貫いている。そこを小出行きの車体で黄色の神奈中バスが燃料タンクを背負い車体を揺らし揺らし砂埃を上げて走って行く。こんな道を甘沼にあつたカトリック修道院の修道女達が、雨の日も風の日も徒歩で通っている姿は、エキゾチックでもあり、印象的な記憶である。

丘陵地の中央の小山の上の甘沼の水道局配水池への階段が見える。ここから右方(東)に高台の森が赤羽根まで続いている。左方(西)には、なだらかな丘が続く、後方には森が連って見え、手前の円蔵の集落の向こうにかくれる。昔からの集落と、甘沼下の精米所の青い建物と、丘の途中にある火葬所のこげ茶色の煙突を除いて、鶴が台団地やニュータウンなどはもちろん一つの建物もなく、田植えの終わった頃の初夏は特に広広とした水田と、その向こうの丘は緑が映え、それはそれは美しい風景であったと記憶している。この記憶は私のだじな宝物である。

この風景のさらに左の方に国鉄相模線が走り、蒸気機関車が列車を引いて煙を吐き、汽笛をポッポと鳴らしながら円蔵の集落の向こうに消えて行く。円蔵の向こうは香川である。

幼少で香川の地名も知らず、汽笛を鳴らしながら円蔵集落の向こうに消えて行く先は、遠い遠い自分の知らない村や町があり、そこを走って戻って来るものと思っていたのである。円蔵の集落の向こうの森の連なる緑の映える丘に見えた香川に私は今、居を構えている。

あの森や丘は殆んど姿を消している。そんな中で私たちは生活している。もう一度あの風景を見たい。あの美しい風景と私たち人間の生活との折り合いがなかなかうまくいかないのは何とも淋しい。それでも香川はまだ緑の多い町でだいにしたいものである。今、庭の残り柿をメジロが啄んでいる。

香小祭

香川小学校長 濱田勇二

「いらっしやい、いらっしやい。」

子どもたちの元気な呼び声がする。はじけるような表情、明るい声。今日は待ちに待った香小祭。

香小祭は、子どもたちが運営する児童活動から始まり、もう18年程の歴史を持つ。当初は模擬店というお店屋さんごっこの発想で、身の回りにおける色紙や割紙、カシヤやドングリ等を材料とした作品を売り物とし、買ってもらう工夫をしたものだった。その中で作る喜びや協力することの大切さを体験し、学校中の子どもの交流を図るといった実践だった。

今もその教育的意義は変わらぬが、今回はなにしろ初めての「わくわくコミュニケーションサタデー」とドッキング。保護者や地域の方も来られるという期待感もあり、子どもたちの張り切り方も分かつたというものである。児童会の香川祭に向けて決めたテーマ「人を思う心あふれる香小祭」にも、その

意のある所が充分に感じられるではないか。教室は店となって飾られ、ハデハデな看板を掲げ、子どもらしいゲームを用意し、その景品は手づくりづくし。主役は子ども、子どもの世界の始まりである。11月29日(土)はアンケートによると、保護者は参観希望者は六百余名。しかしあいにくの雨のため多少減少。お陰で予想された混乱が緩和されたという悲喜こもごもの日。お父さん、お母さんたちは、先ず自分の子が活動している教室へ行く。子どもを確認するとホッとす。初めは「香小祭って何だろう」とウロウロ、遠慮がちに眺めていても、しばらくすると勝手に分り店の中へ入って行く。中に入っても静かに観ている親と、子どもと話しながら指示されたゲームの中に入って行く親とがいます。それぞれの楽しみ方があるようです。

町内の防犯活動に御協力を

第四町内会総務 小松田誠一

師走になりますと、何かときげわしく、普段の生活ペースに乱れが生じ、思わぬ事故に遭遇することうががあります。毎年のことですが、この時期になりますとひたひた、空き巣などの窃盗犯罪のほか、金融機関、深夜のスーパー、コンビニ等を狙った凶悪事件が多発する傾向にあるようです。

第四町内におきましては今年も町内役員を始め、各種団体役員、評議員それに警察官、警察犬等多勢の皆様御協力を得まして夜間のパトロールを毎月実施してまいりました。防犯灯の点検、放置自転車等の把握、無灯火の自転車走行に対する注意、神社仏閣、空き家等暗がりの巡回などを重点に行いましたが、残念ながら今年も町内でチカン、ひったくり、自転車泥棒等、身近な犯罪が発生しました。犯罪を多少なりとも抑止減少出来ればと思ひまして努力しておりますが、何分にも役員だけの活動には限界があります。

地域住民の皆様、防犯に対する意識をより以上高めていただき自分達の手で守るという連帯意識のもとに変質者、異常者を我が町内に寄せつけない環境づくりが最も大事ではないかと思ひます。町内の防犯活動をご理解いただき、行事には積極的に参加して下さるようご協力をお願いする次第です。

今年も体振をよろこぶ

体振会長 上原 博

皆様あけましておめでとうございませう。旧年中は何かと体振行事に対して、多大のご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。さて、年も明ければさっそく1

月15日に、伝統の第60回高南一周駅伝競争大会が開催されます。

当香川地区としましては、男子3チーム、女子1チームが参加し、大いに香川地区のアピールをする予定です。準備を進めております。ぜひ当日は、皆様方の多数のご声援をよろしくお願い致します。市総合体育館前を、女子は8時15分、男子は8時55分にスタート。女子は19km九九六、男子は三〇km三四八を走り、体育館前でゴールします。

大体の予想時間は、女子9時10分、男子は10時30分頃です。出場チームは男子一部地区対抗25、二部実業高校24、女子一部地区対抗10、二部実業高校4、計63。今年も佳年であるように祈ると共に体育振興会のご支援をよろしくお願い申し上げます。

行事の回顧とご案内

ふれあい委員長 阿部利昭

新年おめでとうございませう。昨年は、ふれあい委員会の行事に多数ご参加いただき、ありがとうございました。6月15日の江の島地域めぐりは、江の島探訪クラブの皆様案内していただき、江の島の歴史、作られた背景などを、楽しい話術で話していただきました。

8月9・10日の盆踊りには、スポーツ少年団、子供会などの役員とともに、模擬店を開き、たいへんな賑わいでした。10月12日の日曜日には、ふれあい委員会第2弾の、地引網大会を行いました。茅ヶ崎の海岸で地引網の合間にバーベキュー、ヤキソバなど、また子ども達には、宝さがしなどを行ない、地域の人達とおしゃべりに花が咲きました。

砂浜の足の感触、海の楽しさ、親子のふれあい、友人との再会などを満喫されたのではないかと思います。今年の2月15日には、ポウリング大会が行なわれます。先着90名まで受付ますので、皆様方のお早めの申込を、お待ちしております。

防犯訓練で

トイレ紹介

11月23日午後1時半から第一青少年広場で、平成9年度の防犯訓練が行われた。例年通り町内会ごとに整列。防災本部長(自治会長)の挨拶の後、各防犯部長(町内会長)の指揮で訓練に入った。起震車で地震の模擬体験をしたり、消防署員の指導で水消火器を使って初期消火の訓練を行なった。三角巾の使い方や竹の棒2本と毛布を使って応急担架の作り方を学んだ。

今回は各町内会に設けられた簡易リヤカーや香川ボランティアの簡易トイレが紹介された。テントを貼って健康者用と身障者用などがあった。訓練後の反省として(1)消火器の扱い方や担架の作り方などが分かり、よかった。(2)起震車は町内の参加者の多い所と少ない所と組んでやればよかった。(3)リヤカーの組み立て方や解体のしかたを説明してほしかった等。



簡易トイレ

ハワイを旅して

安江富郎

11月の初めに思いついたハワイ六日間の旅であった。美しい緑の島を想像して降りたハワイ島のコナ空港は、何と見渡す限り真黒な熔岩で、滑走路の両脇も熔岩が黒くるとしている。やがてバスで空港をあとにする。ガイドさんが説明するままに外に目を向けると、道路の両側は黒い熔岩につつまれて、熱帯の花、ハイビスカス、ブーゲンビリア、ポインセチアなどが大きな木となって咲き乱れ、バスの車窓を楽しませてくれる。

カメハメハ大王の生れた島、王朝が愛したビックアイランド、この島の火の女神が住むというこの火山を見ずに、ハワイ島は語れないと言われる程の島である。今も大小の爆発を繰り返し、運がよければ夜闇を切裂く火の帯の神秘をライブで見ることが出来るという。

ここは、ビックアイランドの愛称が示す通り、スケールの大きな

自然が魅力。熱帯の花が咲き乱れる西海岸からの島一周は、変化に富み実に雄大である。

三日目はハワイ島をあとに、空路オアフ島へ。約45分でホノルル空港に着く。この島で見る景色は一変して、車窓から高級住宅街、有名人の別荘、高級高層ホテル、そして見えてくる海は一際ブルーが眩しい、極彩色の別世界が広がる。海の青さだけに飽き足らず、潜水艦でワイキキの沖、水深30mを海中散歩。珊瑚礁の上を熱帯魚や巨大魚が遊泳する様もなかなか見られない素晴らしいものだった。



ハワイ島コナビーチで

ホノルルの美しい景色も、やがて空を茜色に染めて、夕日がゆっくりと沈む頃になると、ワイキキのホテル群が、宝石を散りばめた

様に瞬き始める。何とも言えない気分が引込まれる一瞬でもある。さて、この時期のハワイは、秋というがまだ多勢の人々が泳いでいる。緑の芝生、真白い眩しい砂浜、高く茂った椰子の並木、コマーンシャルに出てくる、「この木何の木...」の

この時期はもう木陰に入れば、心地よい風が肌をいやしてくれる。こうして幾つもの感動の旅ではあったが、さらに、この島には看板がない。ガイドの説明に改めて眺める街の景観は、本当に気持ちいい。さらに、海岸や公園、市街地にも全くゴミ一つ落ちていない。これには同行の皆が、いちように感心させられた。

この外、大きなショッピングセンター、高級ブランド品の店、すべて日本語が通じるので不自由はないが、他に不自由のわけがなくて、多くは立寄らなかつた。

このように行届いた観光地でこそ本心に心に残る、満足の旅をすることができたと思う。

(註) 看板がないのは、条例で立てることを禁止しているとか。

シリーズ 地震のはなし

① 地質と地震

湯川章一

私達が住んでいる茅ヶ崎地区は、南関東の70年周期説の大地震や国府津、松田、神無断層に代表される、神奈川県西部地震、東海地震等、身近に地震の巣に囲まれているといっても過言ではないと思う。

地震は地形、地質によって大きく変動するが、地質的に見て茅ヶ崎地区は、相模川の堆積物と砂丘により構成されている。茅ヶ崎の下部には、3万年前の相模川の河床と思われる段丘礫層があり、その北側の氾濫原の下は砂層がよく連続している。2万年前のウルム水河期には海面の低下が、マイナス120mから130m位までといわれている。

相模川は勾配が急で河口まで礫を運んだ。その後、海面の上昇に伴い、下部には礫層、中部には泥層、上部は砂層で構成された。なお上昇時の海面は新幹線付近まであったとされている。山地を流れてきた相模川は、山麓に達すると傾斜が急にゆるやかになり、岩屑を押し流す力が小さくなり堆積する。そして洪水により扇状地を形づくった。更に下流になると土地はほとんど傾斜していないので、川は僅かな凹みを見つけて曲りくねって曲折し、洪水の度に川が溢れ土砂は川に添って堆積し、自然堤防をつくった。洪水は更にこれらを超えて氾濫する。洪水が引いた後も水が残り、後背湿地帯を構成した。

は水域となり、泥質堆積物が堆積し田圃として利用されるようになった。海岸の湘南砂丘は、強い風によってたくさん砂が海岸から打ち上げられて、後側にある台地等の影響によりせき止められて、厚く堆積したようである。なお障害となつているのは僅かに凹凸する地形であったり、小山であったり、植物であったりする。なお、平塚・茅ヶ崎地区は、何列かの横列砂丘が顕著ですが、茅ヶ崎以東になると、縦列砂丘が発達している。これらが茅ヶ崎地区での現状ではないだろうか。

関東大地震では馬入川橋梁が全部崩壊した。構造物は井筒といつて大きな井戸枠を沈めたもので、材質は煉瓦造りで当時(明治初期)の技術では、手堀り工法であつて礎も浅く貧弱なものだった。国鉄でも技術研究所等で、なぜ馬入川橋梁がこんなにひどく倒壊したかについて研究された。いろいろの事情はあるにせよ前述の泥炭層が礫層、砂層の下に存在し、これが地震によって大きく共振を起し、そして液状化を伴って倒壊した模様である。

えび、橙、ゆずり葉、ご幣など縁起物を飾りつけてあげます。暮の忙しい最中だが、わらにまみれながら一年をふりかえり、いろいろおしゃべりをするのも楽しいものです。皆さんも一緒に手作りのお正月をどうぞ。(内田)

秋の菜園 曾禰和子

コスモスの花に囲まる菜園に落花生もぐのどかなりけり

秋の日に輝き咲けるコスモスを見れば若かりし遠き日想ふ

菜園を始めし頃は落花生地上に実ると思ひあしとぞ

菜園の早咲き菊を届けくれし友に礼のべ仏前に挿す

孔雀草白きその花名の如く菜園の中に羽ひろげたり

咲き残る向日葵にくる揚羽蝶止まりてはまだ飛び移りをり

馬入川は過去でも70年周期で大地震がたびたび発生し、特に安政の大地震では馬入川の渡し場付近の被害が甚大であったといわれている。また関東大地震では町屋地区の旧相模川の橋脚と思われる杭(木造)が液状化により浮上ったとされている。いずれにせよ液状化の被害は大なり小なりあると思う。(次号に続く)

俳句 「茅花」

平塚司郎選

長島 久江

搾乳の夫婦にとどき初明り

業の一つだろ。厳しい寒さの朝の作業を終えて元日を迎えるわけだが、厳しさの中でも初明りの柔かい光が、あたりをわわらびてくれる。

舞初卒寿の背なをまぶしめり
藤村 球子
元旦の車窓に明ける山や川

注連飾る魚の臭ひのトラックに

初不動梅一輪の新勝寺

大晦日から元旦にかけて乗った夜行列車の風景、見なれた山や川の景も初景色として新鮮に感じたのだろう。

ふだん信心している成田山新勝寺へ初詣に行った。気が付くと早咲きの梅が一輪花を開いている。いかにも目出度い風景。葛湯吹く皆幼な子にもどりおり

初列車乗務交替して御慶
湯川 章一
新年初の乗務、無事故を誓つ

火の玉のごそと崩るどんど焼

よそ行きの顔してゐたり春着の子

て何時もより緊張して交替を終え、それから新年の挨拶、ここにも正月を休めないで勤務する人達の生活が見える。

冬空に吸ひ込まれゆく薫の笛

元朝の陽に真向ひて深呼吸
初雀あたりにこぼす鉢の水

伊勢海老の髪の動ける活作
百合子
連絡先 長島久江 ☎(57)六五二五

手作りのお正月

あゆみ会

香小PTAサークルあゆみ会では昭和61年発足以来、しめ縄作りをしていく。今年も地域の方からわらを頂き指導して頂きました。

訃報

平成9年

- 桑原 重義様 12月26日現在 86才 11月17日 第四町内会 37-2組
- 黒沼 玉子様 64才 11月19日 第一町内会 19組
- 比知屋 薫様 72才 11月27日 第二町内会 34-1組
- 大田 恭子様 73才 12月5日 第三町内会 27-1組
- 織田ナツヨ様 88才 12月6日 第一町内会 1組
- 友成千代子様 64才 12月22日 第二町内会 10組
- 熊沢 寿雄様 57才 12月26日 第四町内会 4-1組